



The Salvation Army in Japan

Annual Report

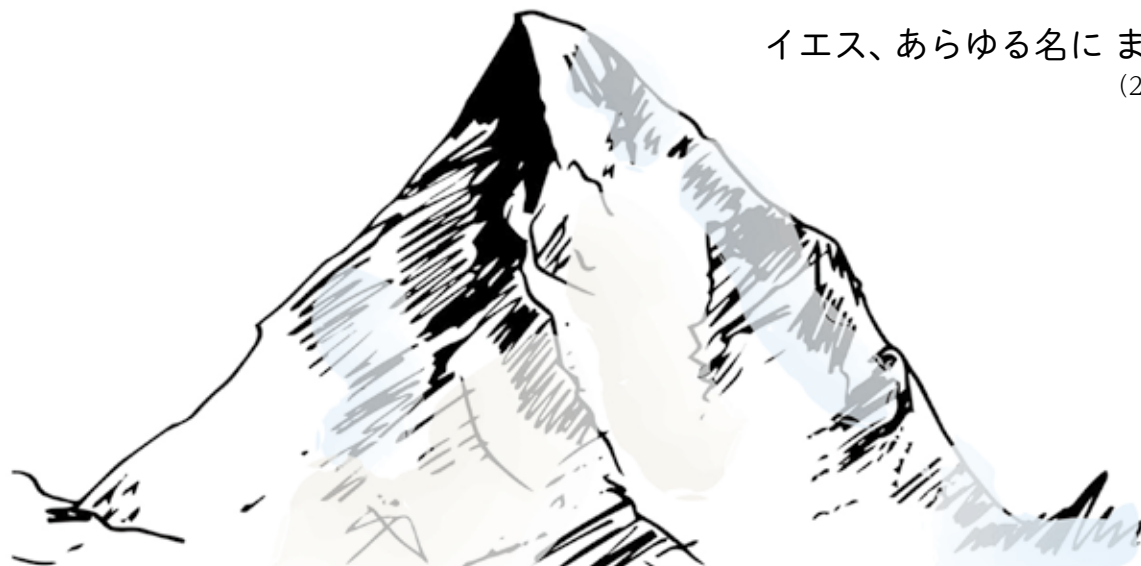
救世軍  
年次報告

2018-2019

Jesus

NAME  
ABOVE  
ALL  
NAMES

イエス、あらゆる名にまさる名！  
(2018年標語)





救世軍のミッションステートメント

万国的ムーブメントである救世軍は、  
共同のキリスト教会における  
福音主義を代表する一派である。  
そのメッセージは、聖書の基盤に立ち、  
その働き(ミニストリー)は、神の愛に動機づけられ、  
その使命は、イエス・キリストの福音を宣べ伝え、  
主イエス・キリストのみ名において、  
分けへだてなく  
すべての人々のニーズに応えることである。

救世軍社会福祉事業及び医療事業の理念

救世軍社会福祉事業及び医療事業は、  
キリスト教の精神と、救世軍の主義に従い、  
すべての人の全人的存在の価値を尊び、  
キリストが一人ひとり愛されたことを模範とし、  
キリストに仕えるように個人個人に仕えることを  
その事業の基盤とする。

もくじ		
ご挨拶	…………… 3	未来に開かれている門
統計で見る救世軍の働き		…………… 10
		インドネシアとの交流に見る高齢者介護の将来像
		東洋英和女学院での花の日礼拝
		…………… 11
		青少年のための働き
地域に開かれている門	…………… 4	府中刑務所での酒害プログラム外部講師について
清瀬病院創立80周年を迎えて		救世軍サポート会ご案内
保育園の礼拝の中で…		
子どもたちに地域交流の機会を	…………… 5	新会館建築・開設記念を迎えた
より地域に開かれた病院へ		小隊(教会にあたる)
地域の小隊(教会にあたる)と施設の連携によって		…………… 12
		神田小隊 120周年によせて
世界に開かれている門	…………… 6	世界各地の救世軍
ミッション・チーム来日		…………… 13
レボリューション・ハワイに青年を派遣		第21代救世軍大将就任!
国際的な協力関係の中で		2018年度海外支援のための献金報告
UNBOUND 来日	…………… 7	
国際支援の地からの恵み		歳末助け合い募金 社会鍋
海外からスタッフ来日		…………… 14
		社会鍋にお願い! アンケート結果
多くの助け手に開かれている門	…………… 8	第2回救世軍社会鍋俳句コンテスト
エンジェルツリー・プロジェクト		『ときのこえ』リニューアル
東日本大震災継続支援		2018年新刊書
西日本豪雨災害被災地支援	…………… 9	2018年感謝祭募金結果
北海道胆振東部地震被災地支援		小隊(教会にあたる)・社会福祉施設・
		病院・その他施設
		…………… 15

統計で見る救世軍の働き

子どものための働き			
保育園児	510人	学童保育	54人
児童養護施設	237人	以上2018年度定員	
日曜学校出席者	4,802人		
子ども会参加者	29,276人		
キャンプ参加者	345人	以上2018年1~12月延べ	

コミュニティ・ケア・ミニストリーズ(地域奉仕活動)			
奉仕活動	443件	受益者数	2,550人
奉仕者数	1,060人	集会数	90回
集会出席者数	2,624人	以上2018年1~12月延べ	

女性のための働き			
婦人保護施設	110人	2018年度定員	
家庭団(小隊の女性の働き)会員	661人		
その他女性のグループ会員	71人		
女性の働きの集会出席数	9,351人*	※2018年1~12月延べ	

高齢者のための働き			
老人ホーム			
(特別養護・軽費)	162人		
老人保健施設	100人	以上2018年度定員	
柏寿会(60歳以上の方の交流会)出席数	1,217人	2018年1~12月延べ	

病院の働き(ブース記念病院、清瀬病院)

病床数	341床
初診外来患者数	1,999人
入院患者数	延べ62,316人
新規入院患者数	260人
	2018年1~12月の統計

ご挨拶



司令官 ケネス・メイナー

親愛なる皆様へ

日頃から多くの皆様よりお祈りとご支援を賜っておりますこと、この紙面を通して深く御礼申し上げます。

この年次報告を通して、皆様心の奥深くに神様の真実な大いなる恵みが届き、神様へ感謝を献げる思いへと導かれるように、と願っております。なぜなら、神様が、救世軍を通して人々に将来への確信を与える働きをしてくださっているからです。

日本の救世軍を指揮する者として私は、2019年の標語「主の栄光を語り伝えよう」と共に、「新しい門を開く」というテーマを掲げております。この年次報告の写真や文章にありますように、すでに救世軍の門は開かれており、地域の老若男女の心が神様に開かれています。これからも、さらに様々な新しい人々に出会うため、新しい方法を開拓しつつ働きを進めてまいります。

改めて、心のこもった支援をしてくださっている多くの方々と、熱心な信仰によって奉仕されている方々に感謝申し上げます。

神様が皆様を豊かに祝福してくださいますように。

■ミニ・ニュース

司令官ケネス・メイナーは、アメリカのドーナツの日(6月第1金曜日)の由来を紹介するため、NHK「グレーテルのかまど」(2018年6月初放映)に出演しました。



地域の人を招いて、仙台小隊(教会にあたる)主催の昼食会



# 地域に開かれている門

救世軍の小隊（教会にあたる）、社会福祉施設、病院はすべて、地域に開かれている門です。それは、どなたでもくぐることのできる、開かれた門です。そして、わたしたちは、その門を通る人々が、神様の愛を受けつつ生きる人生へと導かれることを願っています。

## 清瀬病院創立 80 周年を迎えて



病院長 稲葉 裕

救世軍清瀬病院は、1939年3月1日に岩佐倫を園長とし、救世軍清瀬療養園としてスタートしました。杉並療養所に次ぐ救世軍の結核患者のための療養所でした。1945年の終戦6年前です。創立にあたっては大変な努力が必要だったのではないかと想像しています。戦後は、結核治療の進歩やキリスト教の興隆などから、急速に事業が拡大・発展していきました。その後、対象を結核患者から高齢者・がん患者に移して、国の政策の変化に対応しつつ、病院としては山あり谷ありの歩みを繰り返して、今年創立80周年を迎えています。この数年は、療養病棟の新病棟ができ、院内保育園が開設し、一見順風満帆のようかもしれませんが、目に見えないところには、多くの解決困難な課題が山積みされています。

救世軍の医療は、「心は神に 手は人に」とのスローガンにあるように、神と隣人に仕える医療であり、一貫して貧しい者、悩みある者（聖書にある「小さな者」）に寄り添ってきました。時代は変わりますが、変わるこの

## 保育園の礼拝の中で…

救世軍北海道連隊 連隊女性部書記 鈴木 眞理子

昨年の4月、私は北海道に赴任し、保育園のチャプレンとして子どもたちと関わる中で、印象に残る出来事がいくつかありました。

毎週月曜日の朝、救世軍桑園保育所で4、5歳児の子どもたちと礼拝をしています。ある日の礼拝の後のことです。子どもたちとしばらく一緒に過ごしていましたら、一人の子どもが近づいてきて、「ねえ、眞理子さんって神様とほかに誰と一緒に住んでるの？」と尋ねてきました。私が夫の名前を言って説明すると、「そうなんだあ」と言ってそばから離れていきました。

私は子どもが神様を身近に感じていることを嬉しく思うと同時に、大人より子どもの方が、はるかにイエス様を近くに感じているのではないかと、思わされました。

（中略）また、ある礼拝の中で「子どもを招くイエス様」（マルコによる福音書10章13～16節）のお話をしました。「子どもの好きなイエス様は子ども一人ひとりの頭に

救世軍清瀬病院の理念  
私たちの病院はキリストの愛の精神を模範とし、病む者と家族の痛みを共有し、これを癒し、祈りの心をもってこれを支えることを使命とします。



1938年7月8日  
上棟式  
前列左から2番目  
が岩佐園長



昨春、院内保育園を開園。職員の子どものほか、地域の子どもを受け入れている

ない創造主の愛をこれからも伝え、実践していく病院であり続けたいと願っています。

（『清瀬病院開設80周年記念誌』より）

手を置いてお祈りしました」と話した後、一緒に礼拝をしている子どもたちの名前を一人ずつ呼び、手を置いて祝福の祈りをしました。すると、名前を呼ばれた子どもたちの多くは、少し恥ずかしそうな、しかし目を輝かせて、とても嬉しそうな表情をしていました。子どもたちの表情を見て、私もとても嬉しい気持ちになりました。

そして、創造主であられる神様は、ご自身が創造された子どもの名前を呼んだ時、こんなにも目を輝かせて嬉しそうな顔を見せてくれる我が子をいとおしく感じるだろう、と思いました。（後略）（『家庭団コーナー・プログラム』第166号「子どものように主と交わる」より）



クリスマスのお話を一生懸命聞く桑園保育所の子どもたち



「ひろしま秋の大音楽祭」は、地域の音楽愛好家にも門を開き、救世軍のプラスバンド、岐阜県在住のアルプホルン奏者の演奏など多彩なプログラムで開催されました。（広島小隊）

## 子どもたちに地域交流の機会を

広島県呉市にある呉保育所では、年長児が地域奉仕を体験する機会として、社会鍋の募金活動への参加や支援品を届ける訪問をしています。

2019年2月25日（月）には、安浦やすらぎ作業所を訪問。タンバリンの操練（写真右）や手遊びを披露し、作業所の方と一緒に歌遊びをしました。作業所は昨年7月の西日本豪雨災害の被害を受けており、社会鍋の支援品



として掃除機4台を寄贈しました。また、子どもたちの手づくりペンダントもプレゼントしました。

## より地域に開かれた病院へ

医療部チャプレン 西村 和江

救世軍の病院の特徴は、チャプレン（病院付宗教者）が医療の働きの中でスピリチュアル（霊的）なニーズにお応えしていることにある、と聞いていいかもしれません。

2018年10月、ブース記念病院に「チャプレン相談窓口」を開設しました。チャプレン室では、以前から電話や来院者の突発的なご相談に応じておりましたが、チャプレンの関わりは入院患者様に限られている、とされている方が多いのでは、という声がありました。

チャプレン室が患者様だけでなく、ご家族や地域の皆様のためにも開かれていることをぜひ多くの方に知っていただき、少しでもブース記念病院を身近に感じていただきたい、と願っています。

開設をご案内して以来、毎月2件程の相談が寄せられました。チラシに記載された病院ホームページ（チャプレンページ）を通じての連絡、クチコミで相談に来られる方、院内で声をかけてくださる方など、様々な反応が起きています。お話を聞くだけでなく、専門機関へのご紹介や連絡をお手伝いしたり、より良い解決のための働きかけが必要な場合もあります。1回のご相談で終わることなく、定期的に通って来られる方もおられます。

より地域の皆様に寄り沿った働きができるよう、これからも新しい方法を模索してまいります。

## 地域の小隊（教会にあたる）と施設の連携によって

杉並区にある、特別養護老人ホーム恵みの家で2018年9月27日（木）、杉並小隊のボランティア（コミュニティー・ケア・ミニストリーズ）が準備した、「お月見カフェ」がおこなわれました。

月や、ウサギ、タヌキ、ススキなどの飾りやイラスト、秋の花などが飾られたロビーには音楽が流れ、参加者には数種のドリンクと3種類のゼリーから好きなものを選んでいただくことができました。

利用者の方々や面会に来ていたご家族の方々に喜んでいただけ、小隊ボランティアと参加者との良い交流の機会ともなりました。





# 世界に開かれている門

救世軍の国際本部はイギリスのロンドンにあります。常に、国を越えた人材交流や働きの共有、支援がなされています。日本の救世軍も世界に開かれた門を通じて様々な交流や活動をおこなっています。

## ミッション・チーム来日

2018年夏、アメリカから5人の青年が来日し、東京、神奈川の救世軍を中心に宣教活動をしました。

若い彼らの熱心に伝道する姿が、日本の子どもから大人までの心を開き、神様の愛と導きを多くの方が知ることができました。と同時に、参加したチームのメンバーは、クリスチャン人口の少ない日本の小隊の信徒の熱意に励ましを受けた、と感想を寄せてくれました。



横浜小隊では、目の前の公園でも楽しい遊びを

## レボリューション・ハワイに 青年を派遣

2017年夏、<sup>\*</sup>レボリューション・ハワイのメンバーが来日し、ほとんどが25歳以下という青年の熱い信仰と活動に刺激を受けた日本の青年たち。2018年9月からの9カ月のプログラムに、日本から、公式派遣として2人、個人参加として1人、合計3人が参加しました。参加者の声をお届けします。

「ここに参加して分かったことは、いい意味で『神様を知らないことを知る』ことができたことです。聖書をこんなに深く読むことをしていなかったから、分からなかったことがあったことを知りました。プログラムの中の『孤独と沈黙の日』には、神様と1対1の対話の時間



を十分にもつ経験をしました。そして、祈りとは聴くことである、と知りました。」 石川真 (写真中央)

「言葉(英語)の困難さを感じていましたが、諦めないで参加することができてよかったと思います。たくさんの経験をすることができたことが嬉しかったです。神様に触れる毎日を実体験しています。神様に与えられた自分の賜物を知ることができ、それを生かして神様を賛美する喜びを知りました。」 山口エリ (写真左)

「クリスチャンとして自分が不十分であることを知りました。色々な人と出会うことができ、神様を身近に感じる経験がたくさんありました。街頭生活体験では、多くの出会いと感化があったと思います。イエスのファンをつくるのか? イエスの弟子をつくるのか? ということを考える良い機会でした。」 山谷愛加 (写真右)

3人は6月にそれぞれの派遣先の地域で伝道実践をし、最後の研修をして8月に帰国します。

### ※レボリューション・ハワイとは

アメリカの救世軍が運営する、ハワイ・オアフ島の北海岸のホメラニ・キャンプ場でおこなわれている弟子訓練プログラム(略称REVHI)。3カ月～12カ月のプログラムに、アメリカのみならず世界中から救世軍の青年が参加している。



## 国際的な協力関係の中で

2018年5月、救世軍における国際区分<sup>スピア</sup>SPEA(南太平洋及び東アジア)地域の青少年の責任者の国際会議が、6月には、英国から派遣された講師を迎え、緊急災害救援体制の国際的な基準「スフィア・プロジェクト」の研修会がそれぞれ日本で開催され、2019年3月には、SPEAの救世軍士官(伝道者)のための研修会(写真左)がインドネシアでおこなわれました。



## アンバウンド UNBOUND 来日

2018年5月3日(木・祝)～6日(日)ヤマザキ製パン総合クリエイションセンターで「UNBOUND」(解放、束縛を解かれること)をテーマに、青年の集いとコンサートが開催されました。救世軍のアメリカ東部軍国のワーシップバンド「UNBOUND」を迎え、国内のみならず、<sup>スピア</sup>SPEA(南太平洋及び東アジア)地域からも青年が集い、国境を越えた交流の時となりました。



## 国際支援の地からの恵み

横浜小隊 小隊長 徳永幸次郎

今からちょうど20年前の1999年、台湾で大地震が起こりました。日本の救世軍は支援のために医療チームを結成し、私は、通訳兼コーディネーターとして共に派遣されました。そして、その救援活動の最後の地が、台湾の地理的に真ん中にあたる、埔里の小学校でした。

その後、2000年から埔里での救世軍の働きが始まり、小隊(教会にあたる)ができました。今、埔里小隊は、100人を超える人が集う、にぎやかな群れになっています。

そして、2年前のことです。埔里小隊から一人の青年が、日本への留学をきっかけに、私が小隊長(牧師にあたる)を務める、横浜小隊にやってきました。なんと、彼はその救援活動の拠点となった小学校出身でした。彼は、埔里小隊で信仰をもつようになり、救世軍兵士(信徒にあたる)になったというのでした。20年前、救援活動をしている時には、全く想像もできなかったことです。

## 海外から スタッフ 来日



2018年7月、米国からダニエル&リエン・ラボシエール夫妻(写真右上)が信徒伝道者として、9月には米国からジェネシス&マーサ・アブワン夫妻(写真右下)が救世軍士官(伝道者)として、12月には、スウェーデンからジョナス・ランドバーク(写真左)が信徒伝道者として来日し、それぞれ働きについています。

神様は、その素晴らしい導きを、20年後の今、私に見せてくださいました。神様は、見える形で栄光を表してくださっています。

そのような出会いが土台となり、2018年9月30日(日)、横浜小隊有志が、埔里小隊を訪問し、共に礼拝を守ることができました(写真左上)。そして、2019年6月には、埔里小隊から、小隊長と子どもたちを横浜小隊に迎えることとなりました。私たちの思いをはるかに超えた神様の祝福を感謝しています。



# 多くの助け手に開かれている門

救世軍の信徒や職員だけで、人々のニーズに<sup>こた</sup>えることはできません。多くの助け手によって、初めて、様々な形の支援をおこなうことができるのです。去年は、エンジェルツリー・プロジェクトが日本で初めておこなわれ、250人の子どもたちにプレゼントが届けられました。

## エンジェルツリー・プロジェクト

東京アメリカンクラブ 藤田 友美

最初に東京アメリカンクラブでこのプロジェクトのお話をお伺いしたときから、是非参加させていただきたいと思っていました。

とはいうものの、クリスマスプレゼントを心待ちにしている子どもたちへのサンタクロース役という大変重要な任務ですから、実際のプレゼントがきちんと数通りに集まらなかったらどうしようか、と不安も感じました。

ところが、ふたを開けてみれば、クラブの中で大反響をいただき、数日間で第1回目の募集枠が埋まってしまい、追加のタグまでお願いする嬉しい誤算がございました。

タグに記された、ひとつひとつの願いが、子どもたちからの実際のプレゼントのリクエストという企画は、ただ金銭のご寄付を募るよりも、クリスマスシーズンにぴったりの活動となったのではないのでしょうか。



## 東日本大震災継続支援

SAWSOプログラム・ディレクター 那倉 基夫

救世軍は、2016年4月より米国SAWSO（救世軍ワールド・サービス・オフィス）の協力と支援を受け、各地で被災された方々に対する励ましと、生活再建のための支援をさせていただきました。2018年度に地元のNPO団体と協力しておこなった被災地支援の事例を紹介させていただきます。

### ■被災地の子どもたちへの放課後ケアの働き

「女川向学館」（宮城県女川町：認定NPO法人カタリバ）は、放課後の学習支援と心のケアの働きをしています。高さ20mの巨大津波で人々の生活は壊滅的な被害を受けました。役場や住民への聞き取り・懇談の結果、救世軍には、町の復興・再生で最優先となる「子ども」に対する支援をとの強い要望を受けました。2019年3月

個人的に心に残っているリクエストは、「お部屋に飾る絵が欲しい」というものでした。

このプレゼントで少しでもお部屋が明るくなってくれたなら嬉しいと思いながら、過ごすクリスマスでした。

（写真左から3人目が藤田さん）

※タグ：カードに名前（苗字なし）と希望の品及びサイズ等と年齢性別を記入。個人情報救世軍のみで管理している

### エンジェルツリー・プロジェクトとは…

1979年、アメリカ合衆国バージニア州リンチバーグにある地元のショッピングモールの事業主が、クリスマスの時期に子どもたちをどのように助けることができるか、と救世軍に尋ねたことからこのプロジェクトは始まりました。

救世軍は、地元の子どもの中でも困難な状況にある子どもたちを見だし、クリスマスカードに、贈り物の希望を書いてもらいました。それをショッピングモールのマネージャーと一緒に、モール内のクリスマスツリーに吊るし、人々がカードを選び、寄付者がカードに書かれた物を買ひ、クリスマスツリーの下に置くようにしました。その後、救世軍がそのプレゼントを子どもたちの家族に届けました。この方法はまたたく間に広まり、現在米国では、約百万人の子どもたちがこのプロジェクトによるプレゼントでクリスマスの喜びを受け取っています。また、現在は乳児から18歳までの子どもに加えて、60歳以上の困難な状況にある方々へクリスマスプレゼントを提供しています。

願いを書いた最初のカードに天使の絵が描かれたことから「エンジェルツリー・プロジェクト」という名前になりました。

今回のプロジェクトに、東京アメリカンクラブ様、株式会社ジョンソン・アンド・ジョンソン様、廣瀬不動産株式会社様、玉の肌石鹸株式会社様のご協力いただきました。

まで3年間支援をおこなってきました。

幼稚園児から高校3年生までの年齢層に、「勉強の補習場所」としてだけでなく、友達づくり、カウンセリング、各種グループ活動、創作授業、プレゼンテーション、イベントづくり、社会見学・社会実習など、被災地の公立学校ではなかなか手が回らない面についてのすばらしい成果が、「子ども」たちはもちろん、家族、住民、学校、町の皆様からとても喜ばれています。

### ■高齢者の生きがいづくり活動への支援

住民からの聞き取りから、高齢者が健康を維持し、地域社会の中で生きがいをもって生活できることが、地域社会ですますます必要になっている、とのニーズが見えてきました。救世軍は、高齢者の生きがいづくり活動「NPO法人 びば！ 南三陸」（宮城県南三陸町）を支援してきました。以下のような活動をしています。

①カルチャーセンター活動：エコクラフト（かごづくり・写真右ページ）、習字、陶器、エコ平板、他町村へのバ



## 西日本豪雨災害被災地支援

2018年7月の西日本豪雨によって、広島・岡山県を中心に広範囲で犠牲者が出ました。呉市にある救世軍の施設は、一時孤立状態に陥りましたが、やがて、救世軍児童家庭支援センター「明日葉」と地域行政、広島のキリスト教会の協力体制によって、全国からボランティアを受け入れ、被災地支援の組織「キリスト教会・広島災害対策室・呉ボランティアセンター」（「キ災ボラセン」と表記）が立ち上げられ、支援活動が展開されました。

各地で立てられた臨時社会鍋及び中央災害資金（社会鍋募金を原資とする資金）運動による資金で購入したスコップ、噴霧器、土嚢袋、消毒液等のほかに、銀座「松屋」様より寄贈された飲料水が用いられました。愛光園施設長吉田有中尉は「キ災ボラセン」の中心メンバーとして活動し、5つの教会と1団体の会堂や施設を借りた「宿泊プロジェクト」を実施。日本国際飢餓対策機構（新名称 Hunger Zero）とサマリタンズパース・カナダのスタッフが派遣されました。支援は、給水支援に始まり、各地から寄せられた高圧洗浄機やスコップ、土嚢袋を用いて家屋・道路の泥かき、土嚢袋・がれきの撤去、家屋や庭の掃除に従事しました。全国各地の教会や団体から、延べ1,000人以上のボランティアが活動に参加しました。（小さい写真は救世軍からの参加者）この「重機プロジェク

ト」（救世軍も資金を提供）は、9月末まで継続されました。

被害が大きかった天応地区は救世軍の施設の隣接地域のため、地元の福祉関係者との連携の上に全国規模の協力をいただき、地域のニーズに<sup>こた</sup>える活動ができました。

同時に、広島市や、岡山市、倉敷市、兵庫県灘区などでの支援活動もおこなわれました。（株）クラレ様からも20リットルの水用プラ缶24個が寄贈されました。

## 北海道胆振東部地震被災地支援



2018年9月6日（木）、最大震度7の地震によって、北海道の広範囲が被災。多くの死者、負傷者が出ました。また、「ブラックアウト」と呼ばれる北海道全道に及ぶ停電が市民生活に大きな影響を及ぼしました。地震当日、しせいかん保育園（札幌市）は、資生館小学校・児童館・子育て支援センターとの複合施設のため、小学校が避難所に指定されたことを受けて、保育園を開放し、避難者を受け入れました。

スツアーなどを通して、物理的にも精神的にも内に閉じこもりがちな高齢者を外の活動に連れ出すことができました。

②シルバー人材事業（健康で、労働意欲がある方の生きがいづくり）：公園整備、墓地清掃、地元産業への応援。

この事業の今までの実績が町から認められ、2019年度からの町のバックアップ体制が検討されています。さらに地域の人々に役立つ計画が進んでいます。

■知的障がい児らをコミュニティの一員として育てる働きへの支援

「NPO法人 奏海の杜」（宮城県登米市）は、震災直後から知的障がい児らのケア・指導を実践してきました。震災発生時、障がいをもつなどの弱者の方々は、とても危険な目に遭い、その後の生活にもたくさんの困難を抱え続けています。救世軍は、2016年より奏海の杜の働きに対する支援をおこなっています。現在、知的障がい児一人ひとりに応じたケアや指導教育をおこ

なっています。特に将来、コミュニティの中で生きていくために必要な人との関わり方を学んでいます。多くのボランティアが、遠方から、また近隣から協力してくださっています。知的障がい者に理解がある公共施設やスーパーマーケットなどでのバザーイベントなどに積極的に参加し、訓練とゲームを兼ねたやり方で、売り子やウェイターの役を通して、人との接し方を学んでいます。また、障がい者がコミュニティの一員であることをコミュニティの人々に広く理解していただくよう努めています。





# 未来に開かれている門

救世軍の働きは、国籍や、環境、社会の違いを超えて、神の愛に動機づけられておこなわれています。それは、一人でも多くの人々により良い未来をもたらすために開かれた門です。



## インドネシアとの交流に見る 高齢者介護の将来像

救世軍恵泉ホーム、ケアハウスいずみ 施設長 村上 真

2017年、アジア各国から救世軍の高齢者介護関係者が集まった国際会議に参加し、日本における救世軍の高齢者介護について報告する機会がありました。その会議で、インドネシアの救世軍が運営するウッドワード看護学校のロビ校長と出会いました。

インドネシアにおいて救世軍の病院、看護学校は、地域奉仕と人材育成に多大な貢献をしています。校長は、次々に育っていく看護人材を海外にも広げていきたい、とのビジョンと、高齢者介護の先輩にあたる日本の働きについて学びたい、との願いをもっていました。その会議以来、インドネシアと日本との交流が始まったのです。

2018年春、私はインドネシアのパルにある、看護学校を視察し、救世軍の運営する学校として、信仰を土台にした、良い教育がなされていることを目の当たりにしました。そこには、貧しい農村部の各地から看護・介護の専門家になりたい、と使命感に燃える多くの若い人が集まっていました。(写真右①)

ところが、9月。地震と津波が、私の訪問したパルを中心に、大きな被害をもたらしました。(写真左上) 幸い学校の建物の被害は小さかったのですが、救世軍の病院も一時使用不能となり、屋外にテントを張って治療をする状態が続きました。小隊(教会にあたる)の約6割が被災し、関係者にも多くの犠牲者が出ました。現地の救世軍、政府はもちろん、世界各国からの緊急支援で復旧作業がなされました。実際には、あまりに大きな規模の被害のため、土砂崩れの地域全域が遺体の捜索にも至らず、そのまま土砂によって埋葬された、とされる地域もありました。現在、救世軍の施設もわずかながら復旧し始め

ているところです。

11月には、校長(写真下②中央)が来日。日本の施設を視察しました。高齢化社会から、超高齢化社会へと向かった中で長い実績に裏打ちされた救世軍の介護の実際を見、インドネシアの高齢者介護の将来を見ることができたようです。これからも交流を重ねて、日本の介護について学ぶ必要性を共有しました。

また、日本における高齢者介護の懸念事項は人材確保です。少子化の中、人材は取り合いの状況です。インドネシアで育っている若い優秀な人材が日本で安心して仕事に就ける環境を整備していくことは、インドネシアの人材育成に寄与するとともに、日本における高齢者介護の将来の希望になることを示されています。

(上の2枚の写真は、2019年4月にインドネシアを訪問した際に撮影しました。左は、災害で受けた心の傷を癒すことを目的とした子どものための活動に看護学生と共に参加したときのものです)



## 東洋英和女学院での花の日礼拝

2018年6月8日(金)、中学部の花の日礼拝で、学校の求めに<sup>こた</sup>え、救世軍の高齢者ケアと社会鍋について紹介し、「大切なあなたへ」と題してメッセージ。(学生約600人、教員約70人)『ときのこえ』と医療と介護のパンフレット700セットを、生徒の各家庭に配布していただきました。若い世代に高齢者を理解していただき、聖書の教える命の価値について伝える良い機会となりました。



キッズ・キャンプ(関東東北連隊)

## 青少年のための働き

小隊(教会にあたる)の地域の子どもたち、小隊に通っている子どもたち、保育園や施設の子どもたちは、様々な行事によって多年齢での交流の機会を得ています。

## 府中刑務所での酒害プログラム 外部講師について

救世軍自省館 副施設長 高橋 正隆

2017年9月より、府中刑務所内プログラム酒害教育基礎コースの2回目を担当しています。

府中刑務所におけるアルコール関連プログラムとしては、酒害教育基礎コース(全2回)、酒害教育発展コース(全6回)、アルコール依存回復プログラム(全12回)があります。全受刑者にスクリーニングテスト、酒害指導を実施し、飲酒問題のある受刑者にプログラム参加を促します(回復プログラム以外は希望者も参加できる)。

担当する酒害教育基礎コースの参加者は、4人から8人。アルコール依存症者や飲酒問題のある人だけでなく、他の依存の問題がある人や飲酒問題に興味がある人も参加しています。内容は、①チェックイン「プログラムに期待することや質問を参加者が発言」、②導入「1回目(DVD視聴及びワークブック実施)の振り返り、特に依存症の特徴と依存症になるプロセスの振り返り」、③展開「ICD-10診断基準からのアルコール依存症の説明及び質問への回答」、「回復とその方法(場合によっては

節酒の方法)」、④まとめ「学んだことの分かち合い」の4つのプロセスを基本とし、なるべく参加者の発言を促し、参加者の興味のある話題が中心になるようにしています。ファシリテーションには「動機付け面接法」を取り入れて実施しています。

グループはメンバーによって変わり、話をするのが苦手な人が多い回は、レクチャーが多くなります。節酒に興味のある人が多ければ、「ほどほどの飲み方」や「二日酔いにはどんな食べ物が良いのか」という話にもなるし、病気と言われるのが嫌な人がいれば、治療や考え方に批判的な話が多くなります。けれども、目的はいつも同じで、「誰かに話をする事は悪くない」と知ってもらうことです。安心して参加できることを心がけ、よく話を聞き、認め、ほんの少しだけ介入しています。

## アルコールの害に苦しむ人への支援

1977年、救世軍は、日本で初めてのアルコール依存症総合専門の救護施設「救世軍自省館」(定員50人)を設置しました。近年、アルコール依存症と他の病気との合併症をもつ方の比率が高くなり、施設利用者に対する個別の支援体制を組むことが必須です。常時電話相談(電話番号は15ページ掲載)を受け付け、地域での講演会(年1回)をおこなっています。

## 救世軍サポート会ご案内

2016年に発足した救世軍サポート会。2017年4月～2018年3月の1年間には、1,946,682円のご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

2018年3月には、「子どもたちの未来のために」のテーマで第2回救世軍チャリティーコンサートが開催され、ロビーに据えられた社会鍋を通して、1,190,682円のご支援を賜り、救世軍内の6つの子どもたちを支援する活動のための資金とさせていただきます。中でも大きな資金を投じた、児童養護施設救世軍世光寮の第3グループホーム「カナ」が、2019年3月に無事竣工。設計の坂牛卓 一級建築士は、子どもたちの空間が均一ではなく個性あるものとなるよう、天井の形状等に個別の工夫をしてくださいました(写真右)。

また、前年度繰越金を含む1,888,519円を救世軍の運営資金とさせていただきます。

引き続き、会員となってくださる方を募集しております。よろしく願いいたします。

年会費 個人会員  
一口 3,000円  
団体・法人会員  
一口 10,000円

☆入会方法等詳しくは、救世軍ホームページをご覧ください。

(次ページの振替用紙もご利用いただけます)

☆お問い合わせ: 救世軍本営

「救世軍サポート会事務局」03-3237-0881まで





# 新会館建築・開設記念を迎えた小隊 (教会にあたる)

■新潟小隊は、1918 (大正7) 年7月6日の開設から100年を記念し、小隊会館の大改築と、記念集会をおこないました。…写真1

■月島小隊は、2018年12月15日新会館が落成されました。1階が月島小隊、2、3階が救世軍シーサイド・ハウス (小隊士官宅及び本営職員住宅) となります。…写真2

■岡山小隊は、2019年1月13日、地域の再開発に伴う会館移転を終え、新会館が落成されました。…写真3



# 神田小隊120周年によせて



神田小隊 会計 西宮 渡

兄に導かれて、私が初めて神田小隊に出席したのが1956 (昭和31) 年です。その時の小隊長 (牧師にあたる)、志村一郎小隊長より、初めて信仰の手ほどきを受け、イエス・キリストを私の救い主として信じる生活を始めました。その年に志村小隊長が転任となり、7月に後任の菅野東治小隊長が着任されました。引き続き菅野小隊長に信仰のご指導と導きをいただきながら、信仰生活を送っていました。当時、私が勤めていた会社が純フランス菓子のコロンバンです。コロンバンで菓子職人になるために修行をしていましたが、ある時配置換えがあり、日曜日に休みが取れない部署に異動になりました。その配置換えがきっかけとなり、何年も小隊から離れた生活を続けました。そして、集会 (礼拝) に出席しないで生活している時、ある出来事を通して、それまで気づかなかった、自分の心の中にある醜さ、弱さ、罪深さなどを深く知ることになりました。その苦しい生活を続ける中で、イエス様から離れて、自己中心に生活していたことを後悔し、もう一度イエス様を信じて、信仰生活をやり直そうと思い、小隊に戻る決心をしました。

1964 (昭和39) 年、徳永忠則小隊長の時に、神田小隊の集会に出席し、それまでの罪を悔い改めて、もう一度イエス様を信じる生活を始めることができました。

「神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということ、わたしたちは知っています。」(ローマの信徒への手紙8章28節)

私の信仰の歩みが、これから先、私が願っているように進むとは限りませんが、万事が益となるように、すべてを共に働かせて、マイナスと思える人生も、プラスの人生に変えてくださる神様を信じ、お委ねしつつ、これからも信仰の歩みを続けていきたいと願っています。

(神田小隊開設120周年記念集会での証言より)



神田小隊120周年記念のパレード

# 世界各地の救世軍



■2018年、救世軍の活動する国と地域は131になりました。8月、131番目の国、南太平洋の島国であるサモア独立国 (旧:西サモア) において、正式に活動が開始されました。…写真1

■ナイジェリア 2018年8月29日、人身取引被害者支援活動をイギリスのテレサ・メイ首相が視察しました。…写真2

■インドネシア 9月28日、インドネシアのスラウェシ島で発生した地震と津波の被害は甚大でした。救世軍はすぐに支援活動を展開しました。…写真3

■バングラデシュ ロヒンギャ難民への支援を続けています。難民の生活するキャンプの安全確保のためにLED照明と設備を提供しました。…写真4



# 第21代 救世軍大將就任!



救世軍の最高指導者である、第20代救世軍大將アンドレ・コックスの引退に伴い、2018年8月、ブライアン・ペドルが、第21代大將に就任しました。

ブライアン・ペドル略歴

カナダ出身の救世軍士官 (伝道者)。1977年に救世軍士官となり、小隊長、士官学校教官を経て、連隊本部、本営などでのさまざまな任命を受けた。2007年に救世軍ニューージーランド・フィジー及びトンガ軍国の北部連隊長、2009年にイギリス及びアイルランド軍国の書記長官、2011年7月にカナダ・バミューダ軍国の司令官に任命された。2014年9月に万国本営 (国際本部) に移り、アメリカ・カリブ地域担当万国書記官に任命され、2015年11月に参謀総長に任命された。2018年8月大將に就任。現在に至る。

# 2018年度海外支援のための献金報告

一元献金 1,046,500円

2018年10月、女性部の呼びかけによって集められた一元献金は、スリナムにある社会福祉事業・児童養護施設「ラモスホーム」のために献げられました。一元献金は、支援先のことを思いつつ、一年かけて、小銭等を集める運動です。

2019年の支援先は、フィジーにある「ファミリーケアセンター」(写真)です。女性と子どもたちの必要を満たすために用いられます。



克己週間募金 14,568,305円

2018年春におこなわれました克己週間募金にご協力いただき、ありがとうございます。心からの感謝とともに、結果をご報告申し上げます。

	(単位:円)
北海道地区	633,800
関東東北地区	1,668,210
東京東海地区	6,511,078
西日本地区	2,329,720
医療部	593,520
社会福祉部	1,561,600
士官学校	1,234,377
本営 (本部)	36,000
全国合計	14,568,305



地震後のインドネシアでの医療支援



### 歳末助け合い募金 社会鍋

2018年12月に全国でおこなわれた社会鍋。多くの方にご協力いただき、感謝申し上げます。社会鍋に託された資金は、各地の救世軍を通して地域のニーズを聞き、様々な支援に役立てられています。地域の社会福祉活動をしている団体への支援や、街頭生活者支援などに用いられております。

全国の募金結果は、14,457,116円でした。

また、募金期間中救世軍本営ホームページ上でなされた、「社会鍋にお願い！アンケート」に、ご協力いただきありがとうございました。結果は、右記のようになりました。

年末年始の各拠点ごとの支援のほか、12～3月には、東京地区で、救世軍の信徒や施設職員だけでなく、多くのボランティアの協力によって街頭生活者へ手づくりの食事を届ける「街頭給食」が毎週3回おこなわれています。4～11月は月に1回街頭生活者へ食品と日用品を提供しています。



社会鍋にお願い！アンケート結果  
Qどのような支援に使ってほしいですか？  
A回答者合計 32人  
(複数回答の結果をパーセントで表記)

児童・母子支援	13%
街頭生活者支援	12%
緊急災害対応	9%
自殺予防	8%
保護家庭支援	6%
高齢者支援	5%
障がい者支援	5%
アルコール依存症者支援	5%
ネットカフェ難民支援	4%
原発被災者支援	4%
女性保護	3%
人身取引問題	3%
受刑者更生保護	3%
ニート問題	3%
病者支援	3%
待機児童問題	2%
難民・移民支援	2%
薬物依存症者支援	2%
自然破壊・環境汚染	2%
農業支援	2%
人事相談、漁業支援、海外支援	各1%

アンケートへのご協力に感謝申し上げます

日用品配布(受益者)	1,231人
街頭給食(受益者)	3,585人
ボランティア	544人

2018年4月～2019年3月延べ

### 第2回救世軍社会鍋俳句コンテスト

2017年末～2018年3月に作品を募集した第2回救世軍社会鍋俳句コンテストには、日本全国から441句が寄せられました。三浦喜代子氏(日本クリスチャンペンクラブ代表)による厳正なる選考の結果、下記の句が入賞しました。

〔優秀賞〕 白杖の 手繰り入れたる 社会鍋	東京都・高島恵子
〔特別賞〕 生きている 感謝を入れし 社会鍋	福島県・井上弘子
社会鍋 嬰抱く母の 凛として	千葉県・ペンネーム 安田蝸牛
〔ほのぼの賞〕 幼子は パンダの財布 社会鍋	北海道・熊谷明也

### 『ときのこえ』リニューアル



世界的に救世軍出版活動150年を記念した2018年、日本では『ときのこえ』のデザインが一新されました。発行形態を毎月1日発行の福音版、奇数月発行の広報版に変更(7月除く)。7月には年次報告を発行、全ページカラー印刷でお届けしています。

#### 2018年新刊書

(価格はすべて税別・ご注文は救世軍出版供給部へ)

『献身物語～十人十色～』

90人の救世軍士官(伝道者)の、信仰の生涯を通して、神様の導きと祝福を味わう一冊となっています。

カラー版1,000円、モノクロ版500円

『救世軍こども歌集 子どものうたぼん』

1,000円

#### 2018年感謝祭募金結果

### 15,438,373円

2018年9月15～30日におこなわれた感謝祭の募金活動にご協力いただきありがとうございました。日本国内の救世軍の活動を支える尊いご支援を心から感謝いたします。

インスタに 笑顔溢れる 社会鍋	三重県・会田卓也
年の暮れ ラップを奏し 50年	東京都・平本保子
〔社会福祉部長賞〕 社会鍋 みんなの心が つながって	岡山県・山本修爾
やさしさが 集まるように 社会鍋	埼玉県・柳澤 凛
社会鍋 凍てつく心を 温める	埼玉県・三宅智也
社会鍋 きらきら光る 心かな	埼玉県・大橋涼花
社会鍋 人の心を 灯しけり	埼玉県・瀬戸口創太



受賞された方を囲んで(2018年6月10日)

### 小隊(小隊にあたる)・社会福祉施設・病院・その他施設

#### 北海道連隊(地区)

本部 札幌市北区北22条西5丁目1-5 TEL 011-788-5352

遠軽小隊 0158-42-3409 札幌小隊 011-788-5352  
釧路分隊 0154-25-5367 函館小隊 0138-22-8851  
帯広小隊 0155-23-4877

札幌市せいいかん保育園 011-204-9560  
桑園保育所 北海道札幌市 011-221-6630  
菊水上町保育園 北海道札幌市 011-821-2879



#### 関東東北連隊(地区)

本部 高崎市寄町5 TEL 027-323-1337

桐生小隊 0277-45-3117 仙台小隊 022-273-2368  
前橋小隊 027-231-9533 若松小隊 0242-28-9795  
高崎小隊 027-323-1337 新潟小隊 025-229-2003  
佐野小隊 0283-21-5939 浪江小隊 022-273-2368  
熊谷小隊 048-522-2477 (震災被害のため現在休止中)  
長野分隊 027-323-1337  
佐野保育園 栃木県佐野市 0283-22-4081  
(併設:学童保育「佐野こどもクラブ」)

#### 東京東海道連隊(地区)

本部 東京都墨田区太平4-11-3 TEL 03-6261-5701

上野小隊 03-3873-5386 杉並小隊 03-6256-8191  
大森小隊 03-6272-9771 月島小隊 03-5860-2994  
川口小隊 048-267-9799 西新井小隊 03-3889-3894  
神田小隊 03-3263-0848 横浜小隊 045-714-6060  
京橋小隊 03-3551-0337 横須賀分隊 045-714-6060  
清瀬小隊 042-491-7600 静清小隊 054-365-8270  
江東小隊 03-6261-5702 浜松小隊 053-452-6717  
渋谷小隊 03-6261-2447 名古屋小隊 052-935-7875

児童養護施設・機恵子寮、世光寮 東京都  
婦人保護施設・婦人寮、新生寮 東京都  
男子宿泊施設・新光館 東京都

#### アルコール依存症者支援施設

自省館(救護施設) 東京都清瀬市 042-493-5374  
男子社会奉仕センター 東京都杉並区 03-5860-2992

救世軍バザー場 東京都杉並区 03-5860-2992

オープン 毎週土曜日9～13時半  
中野富士見町(東京メトロ丸の内線)より徒歩10分

江東出張所 東京都墨田区 03-6261-5704  
オープン 毎週土曜日10～15時  
錦糸町(東京メトロ半蔵門線/JR)より徒歩10分

○両施設共寄贈品受付、お問い合わせは03-5860-2992まで

#### 救世軍士官学校

〒166-0021 東京都杉並区和田1-39-5 TEL 03-6256-8262

救世軍士官(伝道者)を養成する学校です。(全寮制・2年間)

#### 山室軍平記念救世軍資料館

〒166-0021 東京都杉並区和田2-21-39 TEL 03-6256-8194

日本における救世軍の資料や、山室軍平に関する文書、資料を所蔵。祝祭日を除く毎土曜に開館(10時～16時)しています。(ただし、指定参観希望日があれば、週日も受け付けいたします)

#### 西日本連隊(地区)

本部 大阪市北区天神橋3-6-20 TEL 06-6351-0084

京都小隊 075-343-3726 呉小隊 0823-25-4794  
天満小隊 06-6358-6679 高松小隊 087-851-0752  
泉尾小隊 06-6551-9187 高知小隊 088-822-0365  
西成小隊 06-6661-3590 八幡小隊 093-652-1584  
神戸小隊 078-341-4594 福岡小隊 092-531-7418  
岡山小隊 086-227-9029 鶴橋分隊、塚本分隊、  
福山小隊 084-926-3151 丹後分隊、大牟田分隊  
広島小隊 082-262-3776 大津分隊

児童養護施設・希望館 大阪府  
児童養護施設・愛光園 広島県  
(併設:児童家庭支援センター「明日葉」)

児童養護施設・豊浜学寮 広島県  
呉保育所 広島県呉市 0823-21-4711

大阪アベノ地下街救世軍カウンセリング・ルーム 06-6773-2956

#### 救世軍ブース記念病院

〒166-0012 東京都杉並区和田1-40-5 TEL 03-3381-7236 (代)  
<https://boothhp.salvationarmy.or.jp>

〈診療科目〉内科、消化器内科(内視鏡)、循環器内科、神経内科、精神科、整形外科、皮膚科、リハビリテーション科、ホスピス外来、漢方内科、各種健康診断、199床(療養病棟147床、一般病棟32床、緩和ケア病棟(ホスピス)20床) 入院随時

(財)日本医療機能評価機構認定病院。どなたでもご利用いただけます

#### 老人保健施設・ブース記念老人保健施設 グレイス

東京都杉並区 03-3380-1248  
(併設:ブース記念ケアマネジメントセンター和田、ブース記念訪問介護ステーションルツ・ナオミ)

特別養護老人ホーム・恵みの家(ユニットケア型)  
東京都杉並区 03-3381-7243

#### 救世軍清瀬病院

〒204-0023 東京都清瀬市竹丘1-17-9 TEL 042-491-1411 (代)  
<http://kiyosehp.salvationarmy.or.jp>

〈診療科目〉内科、循環器内科、呼吸器内科、皮膚科、リハビリテーション科、緩和ケア内科、142床(療養病棟117床[うち介護保険病棟43床]、緩和ケア病棟(ホスピス)25床) 入院随時

(併設:院内保育所「救世軍きよせ保育園」)

(財)日本医療機能評価機構認定病院。どなたでもご利用いただけます

#### 特別養護老人ホーム・恵泉ホーム

東京都清瀬市 042-493-5161

ケアハウス いずみ(恵泉ホーム併設) 042-496-7575  
(併設:ホームヘルプステーションいずみ)

#### 救世軍年次報告2018-2019

発行 救世軍本営 代表者 ケネス・メイナー  
〒101-0051  
東京都千代田区神田神保町2-17  
TEL 03-3237-0881 Fax 03-3237-3588  
ホームページ <http://www.salvationarmy.or.jp>



LORD, I LOVE THE HOUSE WHERE YOU LIVE  
AND THE PLACE WHERE YOUR GLORY DWELLS

# ウエリントン・シタデル・バンド 2019 来日ツアー

11月30日～12月10日

仙台・北海道・東京



ウエリントン・シタデル・バンド  
楽長 ジム・ダウニー



今回のツアーの曲は、「光」に触発されて選んでいます。イエス様は、「世の光」としてこの世界に来られました。「光」が、一人ひとりの人生にどのような意味をもつか、このツアーを通して見だしていただきたいと願っています。

イエス様は、神の愛を説明するために、「光」という言葉を何度も用いられました。「わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ。」

ヨハネによる福音書 8章 12節

また、聖書はこのように記しています。

「しかし、すべてのものは光にさらされて、明らかにされます。明らかにされるものはみな、光となるのです。」

エフェソの信徒への手紙 5章 13、14節

私たちがこのような存在でありたい、と願っています。また同時に、日本の救世軍の一人おひとりが、キリストの光を現すことができますようお祈りいたします。日本の皆様にお会いする時、私たちを通してイエス様の愛が輝くことができますように。